



(写真右)板垣退助の揮毫(きごう)による「志賀清林埋骨之碑」。(同左上)清林パークの南にある志賀清林埋骨地。(同左下)蓬萊山の麓にある清林パーク。



清林パーク

伝説と歴史の舞台を歩く

決まり手四十八手を考案した元祖相撲人

DATA 大津市
 ●歩行距離▶約2.5km
 ●歩行時間▶約50分

まもなく大相撲七月場所
 が開幕する。近年、女性を中
 心に相撲人気が高まっている
 が、かつて近江にも志賀清林
 という最手(今でいう横綱)
 がいた。奈良時代、都でもそ
 の名が知られた最強の相撲
 人(力士)であった。
 神亀年間(724~729)、
 聖武天皇の勅命で宮中の相
 撲節会の行司を務め、決まり
 手の四十八手を考案した人
 物でもあった。その際、天皇か
 ら団扇を賜ったことから、行
 司の元祖ともいわれている。
 実在した人物かどうかわか
 らないが、行司家に伝わる由
 緒書きにその名が登場する。
 志賀清林は大津市木戸の
 出身で、蓬萊山の麓に「清林
 パーク」という公園がある。
 地元では昔話として語り継

公園の遊歩道にある相
 撲四十八手の陶板(写
 真下)。その昔、相撲の
 技は何でもアリだったと
 いう。その中で志賀清
 林は、作法として「突く」
 「蹴る」「殴る」を禁止し、
 投げ手、掛け手、反り
 手、捻(ひねり)手の四
 手を基本にそれぞれ12
 手を設定。相撲決まり手
 の基礎になったという。



がれてきたが、大正期にその
 偉業を顕彰して記念碑を建
 設、1964年には前身の志
 賀清林相撲公園が誕生した
 (1999年にリニューアル)。
 清林の墓は樹木に囲まれ
 た一角にひっそりとたたずん
 でいるが、隣接する公園には
 相撲にちなんだ遊び心がいっ
 ぱい。駐車場は番付表、遊歩

道には相撲四十八手の陶板
 がはめ込まれている。また、広
 場には土俵の形をした砂場
 や櫓太鼓を模した時計など
 があり、相撲を身近に感じる
 ことができる。
 JR志賀駅から「清林パー
 ク」まで徒歩20分程度。琵琶
 湖の湖岸をのんびり散策し
 ながら訪ねてみよう。

モデルコース
 JR志賀駅 10分、湖岸緑地 10分、清林パーク 2分
 志賀清林埋骨地 10分、樹下神社 10分、JR志賀駅
 ※移動時間はあくまでも目安です。

“Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな「近江」という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょうか。

バックナンバーをKEIBUNホームページ
 「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中!
<http://www.keibun.co.jp>